

三日月村の歴史

「三日月村」とは、今から 40 年以上前の昭和 47 年に新田郡藪塚本町(今の太田市藪塚町)観光協会会長伏島武一(ふせじま ぶいち)さんが、たくさんの人たちに藪塚温泉に来てもらいたいとの想いで、町の人たちと協力してつくった日本でも有名なテーマパークです。

三日月村という名前は、当時大変人気のあったテレビ番組「木枯らし紋次郎」(こがらし もんじろう)の主人公、紋次郎の生まれが「上州新田三日月村」という設定でした。伏島さんは、私達の町である太田市藪塚町に三日月村をつくればたくさんの人達に来てもらえ太田市藪塚町の宣伝になると思い、すぐに物語の作者である笹沢左保(ささざわ さほ)さんに相談しました。

最初は、「ブームに乗った建設は反対」と笹沢さんに言われてしまいました。しかし、伏島さんや藪塚の観光協会のみなさん達は、ねばり強い話し合いをして、ようやく7年後の昭和 55 年に笹沢さんに思いが伝わり、ついに私達の町、太田市藪塚町に三日月村が誕生したのです。

三日月村の開園には、当時のテレビスターや群馬県知事、新聞社など、たくさんの人達がお祝いにつけ、その年の1年間に藪塚温泉にやってきたお客さんは、103 万人(今の藪塚の人口は2万人です)以上を記録し、たいへんな賑わいをみせたのです。

その後、たくさんの方が三日月村を模範して、日本各地に三日月村のようなテーマパークが増えていきました。

今では、藪塚温泉や三日月村は全国でも有名な温泉地になってテレビのバラエティー番組やドラマ、映画の撮影地としても使われています。

また、子供のころ三日月村に遊びに来た人達が、大人になって自分の子供をつれてきてくれる、そんなみんながたのしめる場所になりました。